

平成 30 年 1 月 23 日

宮城県環境生活部環境対策課長 殿

株式会社レノバ
代表取締役社長 木南 陽介



宮城県環境対策技術審査会の指摘事項への対応について（回答）

平成 30 年 1 月 19 日付、環対号外で依頼のあった表記について、別添のとおり回答いたします。

担当；株式会社レノバ
バイオマス事業本部 事業開発部（十川、藤平）

「(仮称)石巻港バイオマス発電事業 環境影響評価方法書」に対する12月25日技術審査会の指摘事項と事業者回答

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
騒音	① 冷却方式について、空気が冷却方式を採用したこと から、空冷ファンの増加による騒音への影響を検討 し、必要があれば対策すること。 【岩谷委員】P11ほか		準備書においてご指摘の空冷ファンも含めて施設の稼働 に伴う騒音の予測評価を行い、その結果に基づき必要に応 じて騒音対策を検討してまいります。
悪臭	② 現地調査における調査地点の選定について、海風 が吹いた時の影響が想定される上釜地区、下釜地区 に配置の追加を検討すること。 【平野委員】P233～234		悪臭調査地点については、計画地、釜会館、南浜町、日和 が丘の4地点を計画しておりましたが、ご指摘を踏まえ、 計画地からより離れている日和が丘の地点を見直し、計画 地、釜会館、南浜町、上釜地区の4地点で調査を行います。 なお、環境騒音・振動・低周波音の調査地点についても、同 様に配置を変更します。
水質	③ 水質調査の調査地点の選定について、当該事業に よる影響の程度を正確に把握する観点から、周辺海 域ではなく排水口近傍での配置を検討し、また調査 項目においても、概況調査での項目を幅広く実施す ること。 【木村委員】P235～238		水質調査地点の選定に当たっては、排水口付近の水質を代 表できる地点の選定に留意します。また、調査項目につい ては、周辺海域では現況で環境基準を超えていることを踏 まえ、評価項目として選定した浮遊粒子状物質、化学的酸 素要求量、水素イオン濃度に加え、溶存酸素量、大腸菌群 数、ノルマルヘキササン抽出物質、全窒素、全磷の調査を行 います。
動物	④ 対象事業実施区域及び周辺で希少な猛禽類等が生 息している場合は、工事中における配慮が必要なこ とから、生息状況の現地調査を実施し、環境影響評 価項目の選定について検討すること。 【由井委員】P212		猛禽類等について営巣期の調査を実施し、近傍で営巣地が 確認された場合等は、環境影響評価項目として選定し、事 業の影響を予測及び評価します。
景観	⑤ 眺望点の選定について、滝山公園、東松島市役 所、トヤケ森山等の明らかに影響が小さいと考えら れる場所もあることから、調査地点の見直しを検討 すること。 【平野委員】P239～240		景観の調査に当たっては、影響がない、あるいは影響が小 さいことが明らかな地点を除外したうえで、事業による景 観への影響を的確に評価できる地点を選定し、調査を行 います。
廃棄物	⑥ 燃料の燃え殻について、再生利用及び最終処分等 の処理方法を明確にした上で、処分先を明示するこ と。 【由井委員】P19ほか		再生利用及び処理方法について詳細な検討を進め、準備書 段階で計画をお示しいたします。
温室効果ガス	⑦ 海外から輸入するパーム椰子殻について、熱帯林 保全の観点から、現地において環境保全的に製造さ れたものであることを確認するとともに、極力公的 な認証を受けた燃料を使用すること。 【由井委員】P13		パーム椰子殻を利用する場合には、サプライヤーの現地確 認を実施する等で、環境保全に配慮したパーム生産が行わ れていることを確認いたしました。

項目	審査会当日意見 (※Pは方法書のページ番号)	文書意見	事業者回答 (※Pは添付資料ページ番号)
	<p>⑧ 東北地域の未利用材の木質チップにおける受け入れルートの開拓や将来構想等の検討について、具体性を明示すること。 【山本(和)委員】 P13</p> <p>⑨ 主要な燃料として、海外から木質ペレットやパーム椰子殻を輸入する際の、船舶等の運行に伴い発生する二酸化炭素を含めた上で、温室効果ガス排出量を算定すること。 【由井委員】 P245</p> <p>⑩ 温室効果ガスの排出量の算定について、運転中のみならず、ライフサイクルの考え方を基本に予測、評価を実施すること。 【山本会長】 P245</p> <p>⑪ 燃料材の搬入や燃焼灰の搬出等の国内輸送について、環境負荷低減の観点から、二酸化炭素の発生量が少ない鉄道輸送等の利用について検討を行うこと。 【太田委員】</p>		<p>周辺のバイオマス関連市場に配慮しながら、未利用材の受け入れを前向きに検討いたします。地域の未利用材の動向に関する調査を実施し、準備書段階で将来構想等についてお示しいたします。</p> <p>本事業は、カーボンニュートラルであるバイオマス燃料を用いるため、温室効果ガス排出削減に貢献いたします。一方で、船舶等の輸送に伴い発生する温室効果ガスについても適切に算定いたします。</p> <p>バイオマス発電の稼働による温室効果ガス削減効果のみならず、燃料輸送や燃料製造に伴う発生分を含めたライフサイクル全体の温室効果ガスの予測・評価を実施いたします。</p> <p>当該地域は、民間企業の工場専用線路が近くを通っているものの、公共鉄道の駅までは離れている地域となっております。また、国内未利用材及び燃焼灰の一日あたり輸送量は、鉄道輸送が効率的になるほど多量となっております。このため、トラックでの輸送とならざるを得ませんが、陸上輸送時には、急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等、エコドライブの実施を輸送事業者に徹底する等、環境負荷低減の対策を実施いたします。</p> <p>未利用材を受け入れる際には、放射性物質による汚染状況を確認した上で使用いたします。</p>
放射線の量	<p>⑫ 東北地域の未利用材の木質チップの受け入れについて、放射性物質による汚染状況を確認した上で使用する。 【由井委員】</p>		
その他	<p>⑬ 当該地域では多くの復興事業が実施されており、災害危険区域と居住区域の境目が都市計画決定された道路であるなど、視覚的に分かりやすいところもあることから、これらの都市計画決定された公園、道路等について図書の地図上に記載すること。 【平野委員】</p>		<p>準備書において、都市計画決定された道路、公園等について整理した図面を追加します。</p>